

災害医療体制検討特別委員会

(平成 29 年度)

災害医療体制検討特別委員会報告書

広島県地域保健対策協議会 災害医療体制検討特別委員会

委員長 山野上敬夫

[A] 第 7 次保健医療計画（災害医療）の策定について

(A-1) 委員会会議における議論¹⁾⁻³⁾

医療法第 30 条の 4 第 1 項により都道府県が定めることとされている保健医療計画について、広島県が策定する第 7 次保健医療計画の期間が平成 30 年度から平成 35 年度であることをふまえ、本委員会として 3 回の会議を開催し、第 7 次保健医療計画における災害医療部分について議論を行うとともに、県内有識者の意見を集約した。

なお、各会議の概要は次の通り。

- ① 6 月 1 日（木） 本県の災害医療における現状と課題、第 7 次保健医療計画における国の指針の共有
- ② 8 月 22 日（火） 計画素案の確認、計画の考え方や具体的な内容・表現などの意見照会
- ③ 11 月 29 日（水） 計画案の確認、計画の文言や指標などを検討

(A-2) 第 7 次保健医療計画（災害医療）における施策の方向⁴⁾

国の保健医療計画（災害医療対策）における指針では、「災害急性期（発災後 48 時間以内）において必要な医療が確保される体制」ならびに「急性期を脱した後も住民の健康が確保される体制」の確保を目指すこととされている。

また、近年では短時間豪雨の年間発生回数が増加傾向にあり、本県では平成 26 年 8 月 20 日の広島土砂災害において死者 77 名・負傷者 68 名の被害が生じている。今後も大雨の頻度や熱帯低気圧の強度増加が予想されており、今後、南海トラフ巨大地震をはじめとしたさまざまな大規模災害の発生も懸念されていることから、更なる災害医療体制の構築が必要とされている。

このため、国の計画指針、災害医療を取り巻く現

状、そして平成 29 年度本委員会における議論をふまえて、広島県における第 7 次保健医療計画では次の通り施策の方向を定めた。

1 医療救護活動体制の強化

災害時に防災関係機関と連携して医療救護活動が実施できるよう、訓練・研修、会議等を通じて、平常時から「顔の見える関係」の維持・構築を引き続き推進する。

「広島県地域防災計画」や「災害時医療救護活動マニュアル」等の見直しを適宜実施し、災害時の医療救護活動における実効性を恒常的に確保する。

2 災害拠点病院の体制強化

すべての災害拠点病院が災害発生時に診療機能を維持又は早期回復させるための業務継続計画（BCP）を整備するとともに、BCP に基づいた院内訓練・研修を実施する。

3 災害時における公的支援の在り方と精神科病院等の体制強化

精神科病院等が被災し甚大な被害を受けた場合に、公的救出・援助活動、これと連携した精神科病院間の相互支援体制を整備し、移送、医薬品、食料等の支援及び疾患特性を考慮し、災害時に安定した精神医療を提供できる体制の確保に努める。

4 災害拠点病院以外の病院の機能強化

県は、研修の実施や訓練の公開等により災害拠点病院以外の病院へ災害医療に関する知識の習得を推進し、病院は、災害時における協力体制を構築する。

5 災害派遣医療チーム（DMAT）の養成・強化

厚生労働省が実施する DMAT 養成研修を通じて、DMAT 隊員数の増加など体制の強化を推進、DMAT

隊員間の連携やロジスティクス機能の強化に努める。

6 災害時の情報把握の強化

災害時における迅速かつ正確な医療機関等の情報収集の体制確保に努める。

7 広域医療搬送等の体制強化

広域医療搬送等が円滑に実施できるよう、訓練を通じて、SCUの設置に関する検証や搬送体制の習熟に努める。また、大量の搬送ニーズが発生する場合に備え、大型バスや船舶等による搬送体制の確保など災害時における陸路及び海路搬送の体制強化に努める。ドクターヘリの参集拠点の確保や運航管理を行う人材の確保などドクターヘリの運航管理体制の強化に努めるとともに、防災関係機関へのヘリコプターとの連携強化に努める。

8 圏域における災害対応の強化

災害時において、円滑に医療救護活動を実施するため、訓練・研修等を通じて二次保健医療圏ごとに保健所・市町・地区医師会・医療機関等が連携して活動できる体制を確立する。また、保健所や市町で活動する災害医療コーディネーターの役割を明確化し、二次保健医療圏や市町レベルの地域災害医療コーディネート体制の構築を推進する。

9 災害時を見据えた小児・周産期医療体制の強化

災害時において、適切な小児・周産期医療や物資を提供するためのコーディネーター（災害時小児・周産期リエゾン）を配置するとともに、平時からDMATの活動と連携した訓練を実施する等、被災時を見据えた体制の整備に取り組む。

10 特殊災害への対応強化

特殊災害時に発生した多数傷病者への対応を目的としたMCLS-CBRNE研修を実施し、医療従事者や防災業務従事者へ特殊災害に対する知識の普及等を推進する。

[B] 訓練

(B-1) 広島県集団災害医療救護訓練⁵⁾

平成14年度より毎年開催し、通算16回目となる訓練を実施した。

(1) ワーキンググループによる企画（基幹災害拠点病院である県立広島病院の竹崎亨医師、災害拠点病院である広島大学病院の廣橋伸之医師をはじめとする22名で構成）

① 4月20日（木） 訓練想定、内容、準備計画の共有

② 7月20日（木） 災害想定、訓練実施エリア、傷病者情報などの検討

③ 8月31日（木） 参加者への事前情報開示のルール、参集DMATへの対応などの検討

④ 10月18日（水） 訓練当日の流れ、訓練ルールなどの確認・協議

(2) 訓練日時：平成29年10月28日（土）9：00～15：00

(3) 場所：興生総合病院

(4) 訓練実施主体：興生総合病院、広島県地域保健対策協議会、広島県災害拠点病院等連絡会議、広島県、広島県医師会

(5) 参加協力機関：三原市、三原市消防本部、三原市医師会、NEXCO西日本、広島県警察本部、広島国際大学、陸上自衛隊 ほか

(6) 参加人数：約400名（病院スタッフ、DMAT、消防職員、傷病者役、見学、その他）

(7) 内容：

○院内災害対策本部立ち上げ・運営訓練

○多数傷病者受け入れ、および院内トリアージ訓練（発災対応型ブラインド方式）

○県庁（仮想）等関係機関との連絡・情報共有訓練

○災害拠点病院におけるDMATからの受援訓練

(8) 振り返り

実訓練終了後に検証会が行われた。今年度は初の試みとして、電力を含む病院機能は健在の想定とし、紙カルテ（災害用）のほかに院内電子カルテも活用しながら対応することでスムーズに傷病者情報の把握・整理が行われた。病院長からは、本訓練をベースに、資機材が無い状況や人員の少ない状況を想定しながら、継続的に訓練を実施していきたいとコメントが寄せられた。

(9) 次回開催：平成30年度中国地区DMAT連絡協議会実動訓練の一環として、平成30年10月27日（土）に広島市エリアで実施予定である。今回は、「広島市との連携を強化すること」、「関連団体との連携を強化すること」、「避難所アセスメントを取り入

れること」,「広島ヘリポート(広島市西区)のSCU機能を検証すること」,「広島県地震被害想定調査報告書を参考とすること」などを訓練計画上のポイントに設定して企画中である。

(B-2) MCLS-CBRNE コース

化学, 生物, 放射線, 爆発物などによる特殊災害(CBRNE 災害)では, 通常の大規模事故による多数傷病者事案や地震などの自然災害とは異なる対応が求められている。これに対応可能な人材を育成する目的で, 標記のコースを実施した。

- (1) コース名: Mass Casualty Life Support-Chemical, Biological, Radiological, Nuclear, Explosive:「MCLS-CBRNE」コース
- (2) 主催: 広島県地域保健対策協議会(広島プレホスピタルケア研究会の共催, 広島PTD研究会の協力を得た)
- (3) 認定団体: 日本集団災害医学会
- (4) ワーキンググループ活動: 基幹災害拠点病院である県立広島病院の山野上などの7名で構成。7月3日に準備会議を行い, 準備スケジュールや受講者募集要項の確認などを行った。
- (5) コース開催日時: 平成29年10月8日(日) 8:30~17:10
- (6) 場所: 広島県医師会館
- (7) 受講人数: 30名

(8) 指導者: 東京医科歯科大学救急医学・大友康裕教授をはじめとする30名

(9) 主な研修内容:

- ① CBRNE すべてに対する共通の初期活動の理解 (All hazard approach)
- ② 検知・ゾーニング・除染など, CBRNE テロ・災害の特性の理解
- ③ 個人防護の重要性の理解
- ④ 除染トリアージの理解と実践
- ⑤ CBRNE 災害現場における, ほかの関係機関との連携
- ⑥ 筆記試験・実技試験

引用文献

- 1) 災害医療体制検討特別委員会会議概要 2017年(平成29年)6月1日
- 2) 災害医療体制検討特別委員会会議概要 2017年(平成29年)8月22日
- 3) 災害医療体制検討特別委員会会議概要 2017年(平成29年)11月29日
- 4) 第7次広島県保健医療計画「災害時における医療対策」 pp. 97-104
- 5) 野間純: 広島県医師会速報2018年(平成30年)3月5日(第2364号) pp. 6-18「平成29年度集団災害医療救護訓練—興生総合病院にて実施—」

広島県地域保健対策協議会 災害医療体制検討特別委員会

委員長	山野上敬夫	県立広島病院
委員	青野 拓郎	広島県薬剤師会
	有馬 準一	広島赤十字・原爆病院
	石迫 弘幸	広島県危機管理監消防保安課
	板本 敏行	広島市医師会
	今井 茂郎	呉共済病院
	岩崎 泰昌	呉医療センター
	岩崎 洋一	広島西医療センター
	加賀谷哲郎	広島市健康福祉局保健部保健医療課
	久保 富嗣	広島市消防局警防部救急担当部
	久保 康行	広島県健康福祉局医療介護計画課
	小林 正夫	広島県医師会
	椎木 滋雄	福山市医師会
	志馬 伸朗	広島大学大学院救急集中治療医学
	瀬浪 正樹	JA尾道総合病院
	世良 昭彦	広島市立安佐市民病院
	田中 幸一	市立三次中央病院
	内藤 博司	広島市立広島市民病院
	中川 五男	中国労災病院
	中島浩一郎	庄原赤十字病院
	二階堂寛俊	東広島地区医師会
	野間 純	広島県医師会
	浜田 史洋	日本鋼管福山病院
	平林 晃	安芸地区医師会
	藤原恒太郎	興生総合病院
	前田 正人	三原赤十字病院
	宮庄 浩司	福山市民病院
	村上 信行	広島県薬剤師会
	村田 裕彦	安佐医師会
	森田 悟	東広島医療センター
	山崎 正数	広島県医師会
	山田 博康	広島県医師会
	吉田 研一	JA広島総合病院